



## 【青島支店】

## 中国の外食産業の動向について

## 1. はじめに

中国経済の減速が様々な産業に影響を与えている中、今年 8 月末時点で中国進出が判明している日本企業は 1 万 3,934 社となり、日本企業の中国進出が前年に比べて 1 年ぶりにプラスになったとの報道がありました。業種別に見た中国進出の日本企業数について製造業の占める比率が下がる一方、小売やサービスの占める比率が拡大していることが特徴に挙げられ、特に小売業の中でも中華料理店や日本料理店の進出が目立ちます。中国では共働きの比率が高く、また所得が増加傾向にあることから各家計に占める外食の出費が年々増加傾向にあります。中国の外食産業は約 56 兆円の市場規模であり、日本の市場規模に対して約 2 倍となっています。今年 8 月に国家統計局が発表した最新データによると、全国の外食産業の収入が前年同期に比べて 11.2%増加しており、依然として市場が拡大していることが分かります。今回は中国における外食産業の動向についてご紹介いたします。

## 2. 動向：出前サービス市場の急成長

〔市場規模について〕

最近の中国の外食産業のトレンドとして、インターネットを活用した出前サービスが急成長していることが挙げられます。日本の出前サービスと基本的には同じですが、少し異なるのは専用のアプリを使った注文がほとんどであることです。中国ではスマートフォンの普及率が高く、電話で注文するのに比べ、メニューをタップしながら手軽に注文できることや、代金をオンライン上で決済できることも人気の要因となっています。出前サービスの市場規模は 2010 年の 500 億元程度（約 7,500 億円）から、2017 年には 3,000 億元超（約 4.5 兆円）まで拡大していくと見込まれています。（図 1）中国の GDP の成長率が 7%弱であるのに対して、外食産業の成長率は約 10%前後、その中でも出前サービスの成長率が約 20%以上であることを考えると市場規模が急成長していることが分かります。

では出前サービスはどんな要因で急成長したのでしょうか。大きく考えられる要因としてスマートフォンの普及により簡単にインターネットを利用できるようになったことが考えられます。現在中国のインターネット利用者数は 6.8 億人ほどいると言われていますが、

以前は家のパソコンを使ってインターネットを利用していた人も最近はスマートフォンの普及により、どこでも・いつでもインターネットに接続できるようになりました。このような変化により人々がインターネットを利用する機会が格段に増え、それに伴ったオンラインサービスが充実してきました。出前サービスもその1つです。

(図1) 出前サービスの市場規模 単位：億元  
 青色：市場規模 赤色：外食産業に占める比率 黄色：成長率



引用：サイト名 ChinaStartupNews

〔 利用方法について 〕

出前サービスのほとんどの注文は専用アプリを用いて行われます。代表的なアプリとして「饿了么」、「美团外卖」、「百度外卖」などがありますが、この3つのアプリで全体のシェアの70%を占めていると言われます。

ではどのようにして注文をするのでしょうか。これまでの弁当やピザなどの出前という、各店のチラシやホームページを参考にして電話で注文するのが一般的でしたが、アプリを使えば様々なレストランや食堂の垣根を越えて注文することができます。自分の好きなジャンルの料理から、現在地に近いお店、配達時間の短いお店、評価の高いお店などの検索基準で自分のニーズに合ったお店を選ぶことができます。またお店が決まれば、あとは食べたい料理を選択するだけですが、多くのお店でクーポンが利用できるメニューやキャンペーン中のセットメニューなど、アプリを通して注文することでお得になる特典を付いたり、トッピングや好みの味付けを選択することもできます。ほとんどのスマートフォンにはGPS機能が付いているため、配達先の指定や周辺の店舗リストがすぐに表示されるのも便利な機能として人気です。

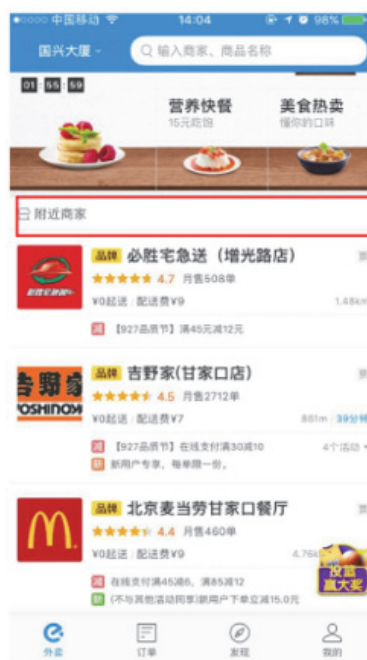
出前サービスで利用できるお店は様々です。例えば大手フードチェーンのマクドナルドやケンタッキー・フライドチキン、ピザハットなどに加え、ローカルな飲食店も出前サービスに対応しているお店が非常に多いのが特徴です。中国では食の多様化が進んでいるため、ローカルの飲食店が提供するメニューも種類が豊富です。出前に向かないメニューでも容器や配膳を工夫しているため、日本に比べて出前できるメニューが多く、消費者にとっては選択肢が広がります。実際の出前は専門の出前業者がいるため、飲食店側は注文を受けた料理を準備するだけで、後は各アプリ専門の出前業者がアプリからの指示をもとにお店から料理を受取って配達します。専用アプリを利用することで料理の注文から配達・代金の決済まで非常にスムーズに行うことができるため、料理を提供する飲食店、消費者双方でメリットを感じることができる仕組みになっています。

(写真) 実際のアプリの画面



百度外卖

(お店の選択画面)



饿了么

### 3. 終わりに

上海や北京などの大都市以外に、青島市などでも出前サービスは利用できます。実際に青島支店でも多くの行員が昼食などに前サービスを利用しています。専用アプリでお店を検索してみると、意外にも大手飲食店の利用者数よりもローカル飲食店の方が利用者数が多い事が分かりました。ローカル飲食店にとってはお店の立地条件に関係なく、利用者の口コミが宣伝になり、配達も各アプリごとに配達スタッフがいるため、店舗の小型化・低コスト化のビジネスモデルが成り立ちます。個人所得の増加に伴い、中国市場における小売・サービス市場の拡大、とりわけ外食産業の拡大は顕著になっています。中国ではインターネット利用者が増加していることに加え、スマートフォンの普及により、オンラインサービスが急速に拡大してきました。その影響を受けて今まで以上にインターネットを

---

活用したサービスが重要なツールとなっています。小売業・サービス業においてはインターネットを利用することで販売窓口が広がり、また口コミが大きな宣伝になります。大きく変化する中国市場の中では、いかに時代にあったサービスを提供するかが重要なカギとなっています。

山口銀行青島支店では、多くの日系企業の進出のお手伝いをしております。進出を検討されている方は、是非お気軽にご相談ください。

以 上